

TRANSITION JAPAN

大切な元には、
大きな足がある。

次世代へ、豊かな
美しい地球をつなぎたい



希望以上に 必要なのは行動です!

(グレッタ・エルンマン・トゥーンベリの言葉)

その行動を支えるのは、

未来を描く想像力と、

次世代へ豊かな美しい地球を

つなぎたいという意識です。

豊かな未来を実現するために、

仲間とつながり行動する。

それがトランジションタウン・ムーブメントです。

<http://www.transitionjapan.net>

つながりが、 人を社会を豊かにする。

急激な気候変動に象徴されるように、今、全地球規模での大転換の時が迫っています。

現行の産業成長型の社会システムは、様々な問題に対して解決の糸口を見出せていない状況です。

持続可能な地球環境を取り戻していくために、私たちができること。

それは、大きなシステムに依存していた私たちの暮らしを、私たちの手に取り戻していくこと。

大国・多国籍企業が主導するグローバリゼーションから、
地域の暮らしに根ざしたローカリゼーションへ。



活動を通してできること

トランジションタウンとは

「いかしあうつながり」という関係性で結ばれた同じ地域に暮らす市民同士が、それぞれの創造力を刺激しあひながら、地域の底力を高めていくことで、社会を持続可能なものへと「移行（トランジション）」させていく。そのための実践的な提案活動です。

トランジションタウンのあゆみ

2005年、パーマカルチャー講師のロブ・ホブキンスさんが、ピークオイルと気候変動問題への対応策として、英国南部のトットネスで起こした市民運動がはじまり。2008年には、日本でも、神奈川県旧藤野町（現相模原市緑区）、葉山町、東京都小金井市の3地域で、トランジションタウン活動の種が蒔かれました。

トランジションタウンのひろがり

おおよそ50カ国以上、1000地域以上（トランジションネットワークに登録している数）。日本では50カ所以上（トランジションネットワークに登録しているのは5カ所）が活動中。（2019年9月現在）

トランジションタウンが大切にしていること



脱依存

大きなシステムへの依存を減らし、生きる力を自分の手に取り戻す。



レジリエンス

社会の様々な変化に対して、柔軟に対応できるしなやかな底力を育む。



想像力
創造力

未来をイメージして、つくっていく（クリエイティブしていく）。

トランジションタウンに参加するには

●トランジションタウンを立ち上げる。

- (1) 3人以上のメンバーがいること
- (2) メンバーの誰かが、トランジションの説明会に参加していること（活動の理解）
- (3) 月に1回程度、定例の集まりを開いていること
この3点をクリアしている地域、団体、グループであれば、あとは「NPO法人トランジション・ジャパン」に連絡して、活動立ち上げの宣言をするだけ！

- 各地のトランジションタウンの活動や「NPO法人トランジション・ジャパン」が主催する様々な企画・イベントにも参加できます。
- メンバーリストに登録する。
- 寄付する

●地域資源の発掘

地域にある資産を知り、可視化すること。自然や歴史、文化など、地域を特徴付けるすべてのものが資源です。だから、そこで暮らす人びとも大切な資源。人と人、人と自然の間で結ばれる無数の「いかしあうつながり」。地域には、そのような無限大の財産があると考えます。

●ネットワークづくり

安心して交流できる地域ネットワークは、暮らしを営む上での大きなセーフティネット。それぞれのニーズと能力を上手にマッチングすることで、例えば災害時でも、外部のライフラインに依存することなく、地域内で助け合いの輪を広げていきます。

●土づくり

ネットワークができると、人の可能性は自然と引き出されていきます。自分のやりたいことが地域内で歓迎され、実現できる。その喜びは人の自己肯定感と自発性を育み、地域に活力を巡らせます。そう、土中で見られる「いかしあひ」の善循環のように。



●暮らしを実践する

仕事に追われ生活のほとんどを外注しても、心の忙しさが解消されない…。そんな時には、暮らしの一つひとつを見つめ直してみる。何を生産し、どう消費して、誰に支えてもらっているのか。「ていねいな暮らし」の実践は自覚からはじまります。

●依存しているシステムから暮らしを取り戻す

現在、メディア、経済、食料、エネルギー、教育など、あらゆるものが大きなシステムの力学で動いています。これらがもたらす便利さ。その一方で、潜在的なリスク。自分たちが頼っているものを知ることで、暮らしのディテールが見えてきます。

●消費することはそれを支援するという事

「買う」とは、その商品やサービスを「応援する」ということ。だから、便利さや安さだけで選ばず、搾取や環境破壊が介在していないか、商品の裏側にあるストーリーを知ることが大切です。できるだけ、顔の見える関係性の中で経済を巡らせる工夫を！



●想像力と創造力

自分の大切なものをイメージし、それを実際に形にする。そういった人間の持つクリエイティブな力の多くは、一人で引き出すことはできません。共鳴し合

える仲間と「いかしあうつながり」で結ばれることで、想像力と創造力は最大化されます。

●身の丈を考えて実行する

ひとつしかない地球。しかし、現在の私たちは、ひとつの地球でまかなえる以上のエネルギーを使い続けています。それは、次世代に負債を背負わせる行為に他なりません。足るを知り、自分が必要な分量の「ていねいな消費」を心がけることです。

●つながりを取り戻す

経済偏重に代表される一元的な価値観の中で、時間と自由を失い、心と身体バランスを崩す人が増えている現代。まずは、そんな世間の流れから少し離れてみることで。分断されていた「生命の織物」を編み直し、大切なつながりを取り戻しましょう。

●地球の循環システムの中の一員である

地球や自然をコントロールするのは人間ではありません。人間が生物の頂点にいるわけではなく、すべての生命が等しく地球の循環システムの一員であり、助け合いの関係性で結ばれているのです。循環を意識して、ていねいに暮らしを営みましょう。

●持続可能なヒントはすでにもっている

石油も電気も車もない。現在の90歳以上の方はそんな暮らしを実践していました。持続可能なシステムのヒントはそこにあります。江戸時代に戻ろうというのではなく、地域に流れる伝統の知恵に革新を織り交ぜて、スパイラルアップしていくイメージで。

●気候変動への確実に大きなアクション

トランジションタウン活動は、地球規模の気候変動に待ったをかける実行力あるアクションだと確信しています。統計上には現れにくい、地球の未来を想う人間の意識下での変化。地域発の小さなアクションでも、無数につながれば大きなうねりになるはず。



トランジション・タウンの特徴

●団体、組織をつくることを目的としない

「トランジションタウン」とは、活動であり、ムーブメントです。組織を形成すること、その組織を維持することは、目的としていません。リーダーが指示、統括するものではなく、それぞれの人が自発的に取り組んでいくものです。

●町おこしとは異なる

地域の外に向けて活動を行っていくものではありません。地域のネットワークを通じて、資源を発掘し、交流を促していくことで、地域住民の絆を深め、課題を解決していく活動です。ベクトルは内側に向きながら、結果として町おこしにもつながります。

活動のための7つの大切なこと

Essential Guide to Doing Transition の翻訳より

- 1 仲間の関係づくり「いかしあひ」のグループをつくる
- 2 ビジョンづくり 作りた未来をみんなで描く
- 3 巻き込む トランジションの仲間に加わってもらう
- 4 ネットワークとパートナーシップ グループ同士が協力しあう関係性を作る
- 5 実践的なプロジェクト 行動で人にインスピレーションを与える
- 6 他のトランジションの人たちとのつながり 世界のネットワークの仲間入りをする
- 7 ふりかえりとお祝い あなたが起こしている「変化」を分かち合う